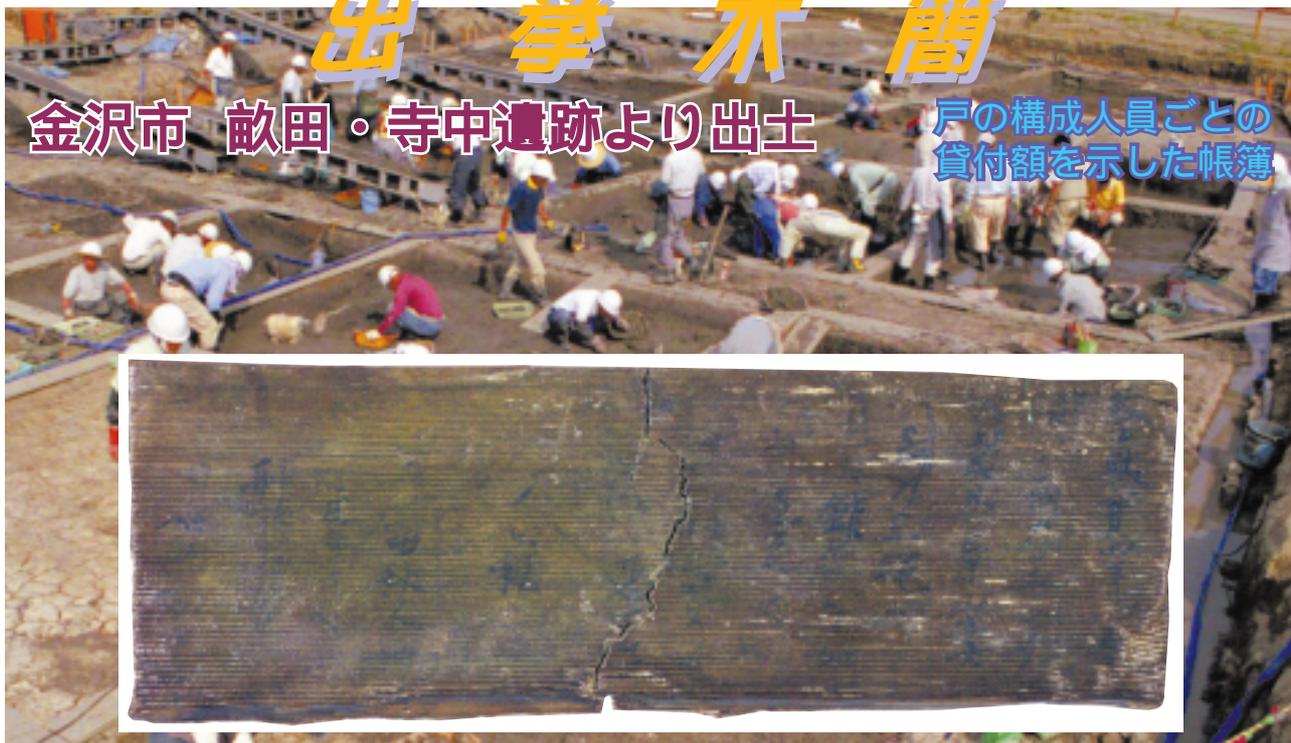


いしかわの遺跡

出挙木簡

金沢市 畝田・寺中遺跡より出土

戸の構成人員ごとの貸付額を示した帳簿



木簡積文	天平勝寶四年上領	戸主阿刀足人六十	妻答尋宅女冊	阿刀三繩冊束	妻館氣奈加女	山邊足君冊	内麻呂廿	□□悪万呂	合稻二百	田秋人冊	答尋 女冊束	刑マ小當廿束	同	姓味知太万呂十
------	----------	----------	--------	--------	--------	-------	------	-------	------	------	--------	--------	---	---------

出挙とは、本来は利子付きで種^{たね}物を貸し付ける農業振興策で、飛鳥時代には、すでに始められていました。しかし、奈良時代に入って強制的に貸し付けられるようになり、実質的な税となりました。その利息は5割（後に3割）と高いものでした。この出挙による収入は律令政府の重要な財源となっていました。

冒頭の年号「天平勝寶四年」は、西暦752年にあたります。木簡には11人分の人名と稲束の数量が書かれています。6人目までは、人名の上に納付がなされた確認のチェック（合^{がってん}点）が入っています。このことから、木簡は、出挙の貸付・収納を行うための帳簿と推定されます。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

平成11年度

親と子の遺跡発掘体験教室

小松市大長野A遺跡	7月31日(土)	} 参加人数 72組(180名)
金沢市畝田・寺中遺跡	8月7日(土)	
羽咋市四柳白山下遺跡	8月21日(土)	

掘る

気温30度を超える猛暑の中、皆さん頑張りました。



まずはこれから掘る遺跡の説明を聞いて...



みんな一斉に掘り出します



やったー！こんな大きな土器が見つかった



出てきた土器について発掘の先生が説明してくれます



気が付くとカゴの中にはたくさん土器が



最後に自分の使った道具をきれいに洗って終わり



勾玉作り

午後は室内で勾玉作りにチャレンジ！！



まずは先生の説明を聞きます



砥石で勾玉のカタチに削って
いきます



よし いい形になってきた



紐を通すための穴を開けます



穴があいたら...



水で濡らしながら仕上げ砥石で
磨いていきます



麻布でピカピカになるまで磨いたら
紐とビーズ玉を通して首飾りの完成



ハイっチーズ！



第1回 いしかわの発掘展終了 (平成11年7月25日～8月31日)

「動物と祈り」をテーマとして催したいしかわの発掘展は好評のうちに終了しました。



展示風景



講演風景

記念講演会

8月1日(日)

石川県社会福祉会館

講師 春成 秀爾

(国立歴史民俗博物館教授)

よつやなぎはくさんした 四柳白山下遺跡

羽咋市にある四柳白山下遺跡は、鹿島バイパス改築工事に伴って、平成6年度から発掘調査が実施されています。これまでの調査で縄文時代から江戸時代まで、連綿とした人々の営みがあったことが分かりました。集落や水田の跡が多く見つかっていますが、出土した遺物などから、奈良時代には役所のようなものがあったと考えられ、注目されています。

この遺跡では、土石流による災害の跡がはっきりりわかるとい、他にはみられない大きな特徴を持っています。調査を進めると当時の人々が生活していたと考えられる地面の上に厚く土砂の層が堆積しています。これが土石流の跡です。昔から大雨が降った時などに、たびたび洪水に見舞われ、山裾に位置している遺跡は、そのたびに大きな石や多量の土砂が村や田んぼに押し寄せていたようです。人々は新たな生活の場を求めてその土石流の上に村をつくっていくのです。そこに再び土石流が襲いかかり、さらに村をつくり直すといった、自然と人との格闘が繰り返されてきました。

このような土石流の堆積状況や各時代の生活の跡は、調査地の壁面をきれいに削るとよく分かります。この遺跡では、現在の地面の高さから、約4m掘り下げないと縄文時代の生活面はでてきません。つまり、今から4000年前の縄文時代から現在まで、4mもの厚さになるほど大量の土砂が幾度となく押し寄せてきたことを私たちに教えてくれます。



作業風景 黒い土の中から土器がたくさんです

土層観察 歴史が見えてくる



シートを引き上げるのも一苦労



上から順に壁を削っていきます高いところは板を足場にして...



徐々に土層が明らかに...



調査員が土質、色の違いを見ながら線を入れていきます



完成 !!
左側には中世の曲物が置かれています



実測中 どのように土が堆積したか記録します。上まで手が届くかな？

しばやまでむら 柴山出村遺跡・しばやまかいづか 柴山貝塚

加賀市にある柴山出村遺跡と柴山貝塚の発掘調査は、県営ほ場整備事業（主に田畑の区画整理）に伴って行っています。柴山出村遺跡は農道になる部分について、柴山貝塚では排水路を作るために遺跡が壊されてしまう部分について調査をしています。工事の計画に合わせ、遺跡の上に保護層を設けて、できるだけ遺跡



を残すようにしていますが、どうしても壊されてしまう場所については調査を行いました。排水路やパイプラインの発掘調査は工事幅に従って2m幅の調査が基本です。この調査は、遺跡を「面」で掘る調査とは異なり、「線」で発掘するので、竪穴住居など遺構全体の姿はなかなか分かりません。しかし、延長数百mや、時には何kmにも及ぶ長さとなる調査は、遺跡全体の様子や、昔の地形を知ることができるとても良い機会でもあります。

柴山出村遺跡では、これまでに縄文時代・古代・中世の遺構と遺物がたくさん出土しました。今年も、奈良時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、土器などを捨てた穴、人骨？が入った小穴などが見つかりました。

柴山貝塚では、縄文時代の土器や石器がたくさん出土しました。

柴山出村遺跡



竪穴住居跡を掘り下げ中！



カマドが見つかりました



湖北小学校児童見学（7/16）

柴山貝塚



これが2m幅の調査区です



深い、狭い、暑い



湖北小学校6年生発掘体験（8/30）

うねだ じちゅう 畝田・寺中遺跡～現地説明会～

今年度から始まった金沢市の畝田・寺中遺跡の発掘調査では、表紙でご紹介した「^{すいこもっかん}出拳木簡」をはじめとして貴重なものが相次いで出土しています。そこで、それらの出土品や遺構などを一般の方々にご覧いただくため8月21日（土）に現地説明会を開催したところ、約200名の方にお集まりいただきました。当日の様様をご紹介いたします。

まずは受け付けと、ご挨拶



参加者が少なくて、たくさん用意した資料が無駄にならないかちょっと心配でした



墨書土器が大量に出土した溝



木簡が出土した溝



このあたりから出ましたと力説しています



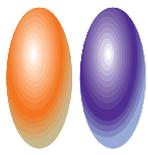
この溝から出土した「天平二年」墨書土器「津司」



出土遺物展示



一時は行列ができるほどみなさん真剣な眼差しでじっくりとご覧になっていました



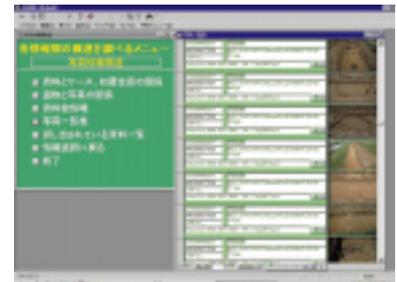
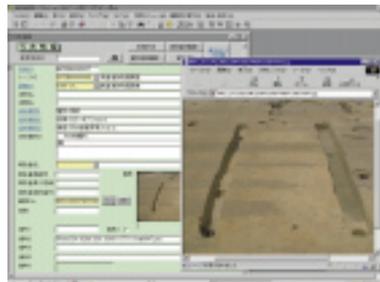
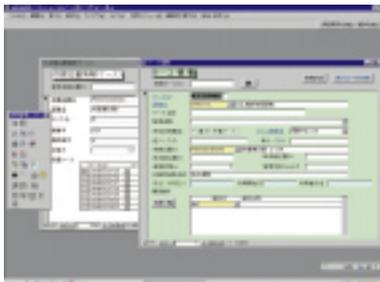
資料管理 出土品、記録資料の保存と公開



出土品や発掘調査の記録資料を保存管理し、公開することは、埋蔵文化財センターの重要な仕事です。そのため、当センターには延べ床面積が4,000㎡を超える大規模な収蔵庫が設置されています。一般的な出土品は幅40cm、奥行60cm、高さ15cmのプラスチック製の箱に収めた後に、一般収蔵庫、特別収蔵庫、定温定湿収蔵庫、低温収蔵庫に分けて保管しています。それは出土品の中には温度や湿度の変化に弱いものや、カビや腐敗の恐れがある水漬け状態のものが少なくないからです。また、建築部材などの大型木製品は屋外の大型水槽で保管されています。収蔵庫全体では61,000箱分の出土品を保管することが可能で、これまでに約43,000箱分の出土品が収蔵されています。

現地調査や出土品整理の過程で作成したさまざまな図面や写真など、記録資料を保管することも大切な仕事です。ほとんどの遺跡では発掘調査が終わった後、工事が行われて遺跡はなくなります。どんな遺跡だったのかという情報は、これらの資料や調査報告書によって未来の人々に引き継がれることになるからです。

出土品や調査の記録書類が、センターのどの場所にあつて、どんな状態なのか、センター内に収蔵している資料の数量が膨大なこともあつて、管理をする作業は大変です。当センターではバーコードを利用したコンピューター管理システムを導入することになり、整備を進めています。この資料管理システムの運用によって、より適切な保存管理を行うとともに必要な情報の検索を効率化し、公開の要望に応えたいと思っています。



センターの各コンピューターから情報を登録したり検索します（資料の所在や関連情報を次々に開けます）



資料管理用サーバーコンピューター



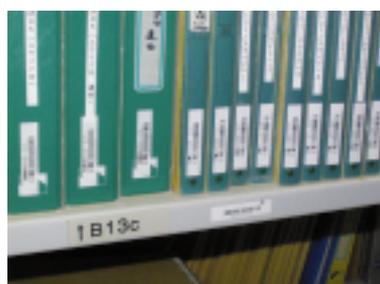
バーコードの印刷（情報処理室）



はりつけよう
貼付用バーコード（CODE128を使用）



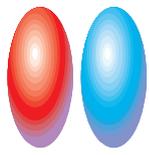
出土品ケースの位置点検（収蔵庫）



写真ケースとバーコード（資料保存室）



報告書や専門図書も登録（図書室）



訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

国指定史跡 羽^{よっさき}昨^す市^ば吉崎・次場遺跡

今から約2,300年前、日本では本格的に稲作が始まったといわれていますが、能登半島で稲作が盛んに行われるようになったのは弥生時代中期だと考えられています。ここ吉崎・次場遺跡は能登半島にとどまらず、北陸でも屈指の規模の集落です。今まで17回もの発掘調査でたくさんの建物跡、土器、木製品が発掘されています。その調査の結果、能登・北陸地方にとどまらず、近畿・東北・山陰地方などと、広く交流があったことが分かっています。

昭和58年には国指定史跡となり、遺跡公園整備が進められてきました。今年完成したばかりの公園には、3棟の建物が復元されており、他にも当時の弥生集落を理解できるような施設等があります。



吉崎・次場弥生公園

交通：能登有料道路千里浜I.Cから車で約10分

お問い合わせ：羽昨市教育委員会文化財室

羽昨市鶴多町鶴多田38-1 電話0767-22-4468



周辺地形の縮小模型



復元された高床倉庫

伝言板

おもしろそう!! 参加してみよう!!

まいばんイベント案内

OPEN

新規 古代体験まつり

埋文センターを会場に各種歴史体験を行います。

平成11年10月23日(土)

石川県埋蔵文化財センター 特設会場

午前10時～午後3時まで

参加無料

体験メニュー：火起こし・機織り・勾玉づくり・石器づくり等々。他にもたくさんメニューがあります

好評 話題の遺跡講座

講演「古代の加賀・能登と 環日本海交流」

国立歴史民俗博物館教授 吉岡康暢

報告「発掘された金沢の古代遺跡」

当センター調査部長 小嶋芳孝

平成11年11月27日(土)午後1時30分～4時

石川県立社会教育センター講堂(4F)

事前申し込み不要・参加無料

